

今回の登録美術品について

1 所有者：

下記①：個人

下記②：個人

2 登録日：平成30年3月27日

3 公開美術館（予定）：

下記①：東京国立博物館（東京都台東区）

下記②：東京国立博物館（東京都台東区）

※公開のスケジュールは同館において決定されます。

4 登録美術品の概要：

	登録 番号	美術品の名称	種類	制作時期	員数	備考
①	76	しほんたんさいこうざんせきようず 紙本淡彩江山夕陽図 しょうちなどしゆうにそう さん 性智等十二僧ノ賛アリ	絵画	室町時代 (15世紀・14 37年頃)	1幅	重要文化財指定 (昭和25年8月29日)
②	77	しほんちやくしよくばいそうしざんけつ 紙本著色馬医草紙残闕	絵画	鎌倉時代 (13世紀)	1幅	重要文化財指定 (昭和25年8月29日)

【登録番号76】

作品名： 紙本淡彩江山夕陽図 性智等十二僧ノ賛アリ

員数：1幅

法量・形状等：紙本淡彩，掛幅装，寸法：130.3 × 30.2 cm

制作時期：室町時代（15世紀・1437年頃）

制作者：不明

説明：

本作品は、山水画に禅僧が漢詩を添えた詩画軸である。江山の隠棲の地を思わせる図様を濃淡の変化を生かした筆墨法で描いた作品で、図上に性智等の12名の禅僧による著賛がある。性智らは京都五山を代表する文人僧であり、洛中の文人僧を結集させた趣をもつ詩画軸となっている。性智の賛尾には、「七十九載大愚叟」とあることから、性智の没年から逆算して、本作は永享9年（1437）頃の制作と推定される。

近景には岩崖に立つ松樹を濃墨で表し、その奥に急峻な山を背にした水辺の寺や楼屋、橋を配す。中景には水際の家々や数艘の小舟、遠景には霞むなだらかな山並みを淡墨で表し、淡く施された彩色によって夕映えの趣となっている。絵は縦長の詩画軸の画面下部に限定された小画面ながら、広闊な眺望を描きつつ、近・中景には微視的な表現がとられ、人々の営みまでが表されている。

画面右下に「越溪周文」の朱文方印が捺され、周文筆との伝称もあるが、当該印は後捺と考えられている。

本作は制作時期が推定されるもので、室町時代に盛行した詩画軸の代表的な作品として絵画史上に価値が高く、重要文化財にも指定されている。

(写真)



(下部)



【登録番号77】

作品名： 紙本著色馬医草紙残闕^{しほんちやくしよくばいそうしざんけつ}

員数：1幅

法量・形状等： 紙本著色^{かけふくそう}，掛幅装，寸法：26.2×22.7cm

制作時期： 鎌倉時代（13世紀）

制作者： 不明

説明：

本作品は、馬医草紙絵巻^{ばいそうしえまき}の一部が切断されて伝来したものである。

馬医草紙は、古来有名な伝説的馬医^{うまや}の肖像と、^{うまや}厩につながれた名馬、巻末に薬草図を添えた絵巻で、中国から伝来した本に日本の馬医などを加えて伝写され、秘伝書として相伝^{そうでん}されたものである。

馬医草紙の完本とみられる作品は東京国立博物館に所蔵されているが、本作品はその第6図部分に該当する。

莫座^{もざ}の上に立ち鼓を手にする白衣の女と、その傍らに座す少女を描いたもので、描線を主体として、淡く彩色が施されている。画面左隅には「大汝 奴婢 小女 小鳥」と短冊形に区画した中に墨書している。図様は完本の絵巻とほぼ同一であるが、描写は絵巻よりも精確で、図写年代は文永^{ぶんえい}4年(1267)の奥書^{おくがき}がある完本よりもやや遡ると考えられる。

現在東京国立博物館には、完本の他に第5図に該当する残闕^{ざんけつ}も所蔵されており(共に重要文化財)、当該作品が併せて同館において公開されることは、研究を深める上で意義が深い。

本作品は、馬を重んじる時代風潮を反映して相伝された馬医草紙の伝写関係を具体的に示すものであり、我が国文化史上、絵画史上に価値が高く、重要文化財にも指定されている。

(写真)

